

1. 評価結果概要表

作成日 22年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1870400205
法人名	株式会社 オアシス
事業所名	グループホームおあしす
所在地	福井県小浜市雲浜1丁目8-8 (電話) 0770-53-5500

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成22年1月28日	評価確定日	平成22年4月22日

【情報提供票より】 (22年1月13日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 28 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 人、非常勤 人、常勤換算 11.7 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有 (円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4)利用者の概要

利用者数	17 名	男性	5 名	女性	名
要介護1	3	要介護2		4	
要介護3	5	要介護4		5	
要介護5	0	要支援2		0	
年齢	平均 85.4 歳	最低 69 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山手医院 西津診療所 藤田歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小浜市の中心街から海岸沿いを北上した静かな住宅街の中に当事業所はある。3階建ての1階と2階に各ユニットがあるほか、同建物には居宅介護支援事業所・小規模多機能型居宅介護事業所・高齢者賃貸マンション等も併設しており、各事業所との連携や交流も日常的に行っている。
職員は、運営母体の理念「家族愛」に加え、事業所の名称である「おあしす」の各1文字を織り込んで事業所独自の理念を意識し、日々のケアに取り組んでいる。
重度化した入居者が増えたこともあり、地域に向く機会は減ってきているが、日常的なボランティアの受け入れや近隣小学校との交流を行っている。また、家族会を兼ねた新年会では、太鼓やスコープバンドによる演奏を地域の方に披露してもらったり、建物内にある多目的ホールを地域住民との交流の場として活用している。今後は、このような地域住民との交流を活かし、非常災害時における地域住民の協力体制の構築についても期待したい。
数名の職員の退職や異動があったことで、現場での職員の連携不足が感じ取れた。安定した入居者の生活を支えるためにも、職員の定着や職員同士の連携について、法人代表者を含め法人全体での話し合いを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価で指摘のあった「理念」については職員で話し合い、事業所名の「おあしす」の各1文字を標準化した事業所独自の理念を作成した。また、「地域とのつきあい」については、ボランティアの受け入れや住民との交流に努めている。 この1年間に数名の職員の退職や異動があったため、改善されていない項目もあり、引き続き改善に向けた検討を期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、主に主任と管理者が作成しており、他の職員は自己評価に対する関心が薄いようであった。職員の退職、異動等もあり、評価のねらいや活用方法について全職員が理解していないようなので、自己評価や外部評価を実施する意義を説明し、評価を積極的に活かして、日頃の業務の振り返りや改善につなげるよう期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と一緒に開催しており、市担当者・グループホーム家族代表・小規模多機能型居宅介護事業所家族代表・民生委員等に参加してもらっている。 会議では、事業所からの状況報告を行い、要望や助言などをもらっている。外部評価結果を報告し、改善に向けた意見をもらうなど、有意義な会議となっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 毎月、入居者の家族に請求書と合わせ、入居者の様子やホームでの行事風景などを掲載した広報紙「雲浜おあしす」を送付し日々の暮らしを伝えたり、必要時には電話で連絡している。また、入居者ごとに小遣い帳を作成し、定期的に家族に見てもらっている。 意見や要望については、基本的には家族の来訪時に直接聴くようにしているが、運営推進会議や家族交流会でも聴き、改善できることは早急に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 重度化した入居者が増えたこともあり、地域に向く機会は減ってきているが、日常的なボランティアの受け入れや近隣小学校との交流を行っている。また、家族会を兼ねた新年会では、太鼓やスコープバンドによる演奏を地域の方に披露してもらったり、建物内にある多目的ホールを地域住民との交流の場として活用している。 今後は、このような地域住民との交流を活かし、非常災害時における地域住民の協力体制の構築についても期待したい。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である「家族愛」に加え、職員で話し合い事業所の名称である「おあしす」の各1文字を織り込んだ事業所独自の理念「おもいやりの心を持ってあなたらしい生活が送れるようしあわせな毎日が送れるようすてきな笑顔がみられるようお手伝い致します。」をつくりあげ、玄関に掲示している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員自身でつくりあげた覚え易い理念で、ミーティング時にも実践できているか話し合っており、入居者本位になるよう意識して日々のケアに取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	重度化した入居者が増えたこともあり、地域に出向く機会は減ってきているが、日常的なボランティアの受け入れや近隣小学校との交流を行っている。また、家族会を兼ねた新年会では、太鼓やスコープバンドによる演奏を地域の方に披露してもらったり、建物内にある多目的ホールを地域住民との交流の場として活用している。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
■	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、主に主任と管理者が作成しており、他の職員は自己評価に対する関心が薄いようであった。前回の評価結果は職員に報告したが、その後職員の退職や異動などもあり、全職員に浸透してはいない。		全職員に自己評価や外部評価を実施する意義を説明し全員で自己評価に取り組むとともに、外部評価結果を活かし改善に向けて取り組むよう期待したい。
■	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と一緒に開催しており、市担当者・グループホーム家族代表・小規模多機能型居宅介護事業所家族代表・民生委員等に参加してもらっている。会議では、事業所からの状況報告を行い、要望や助言などをもらっている。外部評価結果を報告し、改善に向けた意見をもらうなど、有意義な会議となっている。		運営推進会議に職員も参加し、現場の声を伝えていくことを期待したい。また、運営推進会議の議事録についても全職員が目を通し、会議内容について共有することを期待したい。
■	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市包括支援センター職員に入居者の支援について相談にのってもらったり助言を求めると、入居者が安心して生活を継続できるように取り組んでいる。また、施設長が市の介護予防・リハビリ推進人材養成事業運営委員として参加している。		
		4 理念を実践するための体制			
■	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、入居者の家族に請求書と合わせ、入居者の様子やホームでの行事風景などを掲載した広報紙「雲浜おあしす」を送付し日々の暮らしを伝えたり、必要時には電話で連絡している。また、入居者ごとに小遣い帳を作成し、定期的に家族に見てもらっている。		
■	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望については、基本的には家族の来訪時に直接聴くようにしているが、運営推進会議や家族交流会でも聴き、改善できることは早急に対応している。		
■	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人代表者は、職員の退職に伴う補充やどのサービスでも対応できるようにと職員異動を行っているが、ホームとしてできるだけ異動をなくして入居者と馴染みの関係を継続していきたいと思っている。		安定した入居者の生活を支えるためにも、できる限り職員の異動を少なくする配慮を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年は数名の職員が退職したため、現場職員が不足したこともあり、研修を受ける機会が減少したが、職員は研修に参加していきたいという希望がある。		人材を育成し、サービスの質を向上させるために研修は欠かすことができないので、内部・外部を問わず研修の機会を確保するよう期待したい。また、退職者が多いようなので、職員が定着するよう雇用環境の改善について法人の代表者を含め話し合いを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム連絡協議会に参加しており、管理者が同業者と情報交換している。職員は法人内の事業所間で交流しているが、他の事業所との交流はできていない。		法人外の同業者との職員同士の情報交換や相互訪問研修を行うなど、サービスの質の向上につなげる積極的な取り組みを期待したい。
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスはいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては管理者が自宅等を訪問し、本人や家族に十分説明を行い、心身の状況等を把握するようにしている。また、事前に見学してもらい、ホームの雰囲気を味わってもらい、入居後も職員が見守りや言葉掛けで徐々にホームに馴染めるよう支援している。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い物や折り紙、家事を教えてもらっているが、最近では入居者の重度化の進行もあり、入居者の中には自発的な意欲が少なくなってきたりもいる。職員の退職や異動等もあり、入居者と共に過ごし支えあう関係を築いている途中の段階と感じた。		入居者の意欲低下は重度化だけでなく、職員の退職や異動による影響も考えられるので、職員が継続して支援できる安定した職場環境づくりを期待したい。
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握		
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から思いや意向を把握し、入居後は、担当職員が日常生活から一人ひとりの思いや意向を把握するように努めている。把握した内容は記録し、職員間で共有しているが、新人職員にはわかりにくい様式が使用されていると感じた。		新人職員でも入居者の状況が分かりやすいシートの作成やセンター方式の活用なども期待したい。
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望などを聞き、担当職員と介護計画作成担当者が中心になって全職員でカンファレンス(介護サービス担当者で行う会議)を行い、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人・家族・担当職員の意見を踏まえ、介護計画作成担当者が3か月に1回定期的な見直しを行っている。入居者が重度化してきているため計画の変更等はあまりないが、急な変化が生じた場合は、家族・職員等と話し合い、その都度計画を変更している。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一建物内に高齢者賃貸マンション・小規模多機能事業所・居宅介護支援事業所が併設しており、併設事業所の機械浴を利用したり、事業所間で合同の行事を行なうなど、柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のこれまでのかかりつけ医での受診継続を支援している。また、協力医療機関からも定期的に往診してもらっている。受診結果は、家族と情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や看取りについてホームとしての方針があり、契約時に家族に説明している。健康状態に応じて、家族・主治医等を交えながら終末期の支援について話し合っており、ホームとしてできる限りの支援をしている。今までに看取りの経験もある。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時の声掛け等について、入居者のプライバシーを損なわない対応をとっており、個人情報の取り扱いについても、事業所内で保管するなど、十分に配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意向や希望に沿って支援を行ってはいるが、入居者の重度化もあり以前のようなその人らしい暮らし方まではできていないようであった。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の身体状況から調理や準備などを手伝ってもらうことは少なくなってきたが、職員と一緒に献立を考えたり、買物に出かけている。食事は職員も一緒にテーブルにつき、会話しながら食事を楽しめるように支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望の時間やタイミングで入浴できるように支援している。入浴を拒む入居者については、職員が声かけを工夫し、入浴を促している。重度化した方には、併設の小規模多機能事業所の機械浴を利用してもらう場合もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや下膳などできる範囲で役割をもってもらうように支援しているが、入居者が重度化したこともあり、集団での楽しみごとは減ってきている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は、入居者の体調を見ながら散歩や買い物などの外出支援を行っている。また、年1回家族と出かける家族交流会も開催している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、外出したい入居者には本人が納得するまで職員が付き添って散歩している。玄関の扉には人の出入りが分かるようベルをつけている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中・夜間を想定した避難訓練を年2回行っているほか、防災マニュアルも作成されている。スプリンクラーは、平成22年秋頃の設置予定である。また、市の災害時避難場所にも指定されている。		非常災害時には職員だけでは避難誘導に限界があるため、運営推進会議を活用して地域住民の協力要請を行うよう期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ごとに食事量・水分量をチェックするシートに記録している。また、各入居者の状況に合わせて、食べる量や水分量を確保できるように支援している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングの一角に畳敷きの部屋があり、中央に掘りこたつが設置されている。入居者が洗濯物をたたんだり、自由に横になれる場所にもなっている。リビングの壁には、行事の写真等が掲示されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅から持ち込んだタンスや布団があり、壁には家族の写真や手紙等が貼られており、その人らしく居心地よく過ごせる空間となっている。		

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	漠然としていた「家族愛」の理念を標語の様にし、全職員が統一した方向で介護出来るようにしている。		理念を目に付く所に掲げ、常に念頭に置けるようにしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	標語化した事で、具体的に取り組んでいる。		新職員には理念の元に介護を行う大切さを伝えている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には標語化した時に送付したり、ホーム玄関に掲げ、面会時に解るようにしているが、地域に対しての取り組みが出来ていない。		地域の人々にも理解してもらえる様に取り組みたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度しか行っていない。		ホームの催しなどで、つきあいを深めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の回覧板や、民生委員さんから情報を得て、行事、催し、奉仕作業等に参加している。		地域の催しや行事に参加する事で事業所の理解を得たい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の避難所としている事他、高齢化の進む地区の奉仕作業などに事業所として協力している。		今後も続けて行きたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価から出来ていない事については、全職員で話し合いを行い日々のケアに活かしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話しあった内容から問題解決が出来たり、アドバイスをもらえる事が有り活かしている。		運営推進会議に一般職員の参加する機会を設け意見を取り入れたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	若狭圏域運営委員会に所属しており、会議に出席している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、又、必要とする入居者がいないため、活用していない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はあるが、参加できておらず。事業所としての研修や委員会があり、全職員で注意し合っている。		虐待についての外部研修にも参加したい。
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの内容を理解してもらえるように、ゆっくりと時間をとって質疑応答が出来るようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時生活の場では、1対1で不満を聞くように努め、外部者への取次ぎも行っている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、各個人の家族へ便りにて伝えている他、急を要する時には、電話にて伝えている。		現在の報告方法に家族は満足している為、今後も続けていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内容については速やかに対応、反映されている。		家族からの意見は貴重な為、随時聞くようにし、反映させていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見、提案を聞く事を行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務を組む上で考慮し、調整を行っているが、職員の人員に余裕がない為、難しい時もある。		必要人員を確保し、柔軟な対応が出来る様にしたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はどこの部署でも勤務できるようにと考え異動をすすめてくるが、馴染みの大切を話し合っている。		離職については、条件面などで話し合いを持つようになっている。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やスキルアップの研修を受けるよう進めているが、職員不足になる事もある為、確実には受ける事ができていない。		なるべく多くの研修に参加できるようにしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談を行い協力はしてもらっているが、職員不足により訪問や勉強会は行っていない。		安定した職員確保が行えれば、実行していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム以外の場所に休憩室を設け、気分転換を進めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの長所が、具体的にどのように良い影響を与えているかなどをさりげなく説明している。勤務が通常考えて過酷であったりするときは前もって声を掛け、終了後ねぎらうようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	面会や訪問から話を聴く時間を多くとり、利用までに不安解消に努めている。		訪問調査などで、ゆっくり話を聞く事で解消に努めたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	ゆっくり話しを聞く時間を持ち、困っている状況や不安に思うことについては、しっかり対応していく。		家族の思いを理解して、いい関係を築いていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時の情報をもとに当事業所内・他部署とも必要に応じて話し合いをし、支援を見極めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にはホーム内の見学を自由にももらい、他の利用者・場の雰囲気を覚えてもらっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から昔よくしていた裁縫や折り紙を教わったり、職員の悩み事を聞いてもらう等互いに支え合いながら生活を送っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の出来た事を共に喜び、認知の進行を一緒に考えたりと、共に支えていく関係を築いている。		今後も良い関係を続けていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事やお小遣いを理由に面会を促し、まず顔を合わす事を考えている。		本人と家族が何ヶ月も顔を合わせない事がよく見られるので、来やすくする工夫を考えていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの住空間に合わせたり、馴染みの物があれば持って来てもらったり、又行きつけの理容店があればそこで散髪したりして対応している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションや生活上の洗濯物たたみや、茶碗拭き等一緒に出来る事は共同で行うようにしている。		無理にさせたり、重荷にならないように注意を払っていきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先への訪問をしていいか、退去時に家族に許可を得て関係を断ち切らないようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を明確に言語化できる場合は随時訊くようにし、出来ない場合は過去の生活歴や、家族の意見、本人の表情などから本人にとって良いように検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に家族や本人に聞きとり、把握、記録に残している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は本人の生活リズムや心身状態を把握して介護するようにしている。しかし、有する力の活用については、できることまで職員が手を出してしまうことがある。		入居者が何が出来て何が出来ないのかを把握し、できる事はしてもらえようようにすることを徹底していきたい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンス会議にて全職員で話し合い、本人・家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。		まず計画を実践したことによる成果を明確に伝え介護計画の重要性を理解して立てていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行い、変化が生じた場合も話し合いをもって計画を作成している。		職員本位の介護計画にならない様になりたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に経過記録をとり、介護計画に関するものについて把握をし、記録している。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模多機能型居宅介護や安心マンションなどの法人内の他事業所を視野に入れて支援している。居宅事業所の助言を得ることは日常的にある。		法人内にある部署とも連携をとっていきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	踊りのボランティアを招いたり、同地区の小学生の訪問交流がある。		より多くの機関と交流を持っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域リハビリサービスを年1回活用し理学療法士に訪問指導してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議で状況報告する程度となっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を主治医にすると、月1回の往診が受けられるということは説明するが本人・家族の意向に従っている。総合的な診療が必要な場合は、総合病院のほうが良いということを進言している。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に理解のある精神科医に診察時などに普段疑問に思っていることなど相談できている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホーム看護師として週一回訪問看護と契約し、相談助言をもらっている。地域の看護師とは受診・入院時に相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は面会時などに情報を得たり、相談している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約書に記された対応マニュアルをもとに、本人や家族、担当医、看護師と話し合い、方針を決定・共有する。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>方針により対応の統一を図り支援するが、複数の入居者が重度化したときにどこまで対応できるかが課題となっている。</p>		<p>対応に対して混乱のないように事前に検討しておきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居先に介護情報として文書を渡している。</p>		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>訪室時のノックや居室にはいらさせていただく時の本人への声掛け、広報紙などに写真を載せる時の本人や家族への了承を得ている。</p>		<p>プライバシーに配慮する為に、職員間で統一した対応をしていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>筆談をつかったり、選択性のあるものは実際にそれを見せて決定してもらっている。しかし、特に介護の内容についてはどうしても職員本位になりがちである。</p>		<p>結果としてほぼ入居者の為になると思われることでも、本人としっかり会話をもち、決定していくという気持ちを徹底していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースを大切には考えているが、無意識のうちに職員の都合になっている時もある。</p>		<p>管理者はユニット内の決まりごとなどが、入居者の生活に支障を及ぼすような職員本位のものでないか配慮していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>理容・美容は本人の望むようにしている。店に行くこともあればホームに出張してもらうこともある。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立については希望を聞き反映させるようにしているが、希望があまりでてこない。</p>		<p>希望を聞く時に工夫してもっと希望が出て来ればと考えている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲み物やおやつなどは買い物時などに好きなものを買ってもらったり、買い物代行をして楽しめるように支援している。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じてトイレ誘導をしたり、夜間のみオムツをしたりして安易にオムツの使用を始めたりしないようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームで決まっている20:00までの範囲内なら希望に応じて入浴してもらっているが、夜間希望する方はいない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転しない程度の昼寝は本人の意思に任せ、夜間不眠で辛そうにしているときなどは休息を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調査票や日常での会話、家族に聞いたり情報を収集し、ホーム内でもしてもらえるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することを希望する場合はしてもらい、希望がない場合はスタッフルーム金庫に預かるが、買い物に行くときなどはいつでも使えるようにしている。		レジでの支払い時に能力のある方、は本人にしてもらえるようにする。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望がある場合は応じるようにしている。が希望があまりなく、ある程度の声掛け促しを行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	身体機能の低下や本人の拒否もあって行けない現状である。		機会を見て計画をよく練り支援したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使ってもらえている。手紙については、促すことはあるが出される事はほとんどない。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、本人、家族の希望により落ち着ける場所にて過ごしてもらっている。お茶を出すなど配慮もしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、理解しているが、細かい内容や言葉による拘束については出来ていない時がある。身体拘束委員会は設けている。		身体拘束のないよう理解を深めていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の希望や身体の危険が予測される場合以外は掛けないようにしている。その場合は必ず本人と家族の了解を得るようにしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は常時見守りと夜間は3時間ごとの巡視にて確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に排除するのではなく、生活の質を落とさないよう工夫して個々に対する対策し残すようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については年2回の避難訓練で消防署の指示助言を得ている。転倒しやすい入居者には見守りを必ずし、薬については個別に一日分を朝・昼・夕と袋わけしている。ただし、リスクマネジメントについては研修などにも行けておらず全職員が学習不足である。		管理者はリスクマネジメントについての学習を、研修なども利用して今後全職員に啓発していきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルにて対応し、消防署の協力を得たり、施設内での研修にて技術を訓練している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災については訓練を行えているが、地震や水害については訓練すら行っていない。地域の協力を得られるような働きかけも出来ていない。		地震・水害についての訓練も行っていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	変化があった場合など、話し合うことが出来ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送り用紙に記載し、全職員が認識できるようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と一緒に添付してある薬情報により理解しているが、管理者が職員全員に把握しているかあらためて確認はしていない。		薬の情報について理解しているか管理者が確認する。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	運動については理解し取り組んでいる。食事については食物繊維の十分な摂取を配慮している。また、水分補給も促している。		食事の工夫については栄養士への相談により、いっそうの改善に努めていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後はしてもらっている。朝や特に昼は、過去の生活で習慣のない入居者が多く、促しはするが無理強いはず、うがいのみはしてもらっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のチェック表につけ、支障のない限り量も本人の希望に応じている。水分量については必要に応じてチェックしている。		栄養士が法人内に勤務している為、栄養バランスについて助言など連携を深めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成してある。しかし、管理者はそれを職員がどれだけ把握しているかを、あらためて確認することは出来ていない。		全職員に感染予防への理解の徹底に努めていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手洗いしっかり行き賞味期限にも気を配っている。調理用具の定期的消毒は出来ていない。		調理用具も定期的に消毒していきたい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に花を置いて明るい雰囲気を出しているが外観は事務所的で工夫がしにくい。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に花や季節にあった創作物を展示している。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際の明るい場所にソファを設置したり、テレビや掘りごたつのある和室があるなどくつろげる場所の提供を行っている。状況に応じ配置も変えている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた思い入れのある物品やタンスなどを持ち込んで使ってもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気のあるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天気の良い日は窓を開け換気し、冷房・ドライ・暖房を必要に応じて使い温度調整をしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて手すりを追加したりすべり止めを使用したり工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	必要に応じて居室やトイレに目印をつけている。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏の畑を整備し作れるようになった。見て楽しむ事が出来るようになった。		畑仕事が好きな入居者は参加出来るよう支援していきたい。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームあしす ユニットせせらぎ（認知症対応型共同生活介護事業所）

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	漠然としていた「家族愛」の理念を標語の様にし、全職員が統一した方向で介護出来るようにしている。		理念を目に付く所に掲げ、常に念頭に置けるようにしている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	標語化した事で、具体的に取り組んでいる。		新職員には理念の元に介護を行う大切さを伝えている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には標語化した時に送付したり、ホーム玄関に掲げ、面会時に解るようにしているが、地域に対しての取り組みが出来ていない。		地域の人々にも理解してもらえる様に取り組みたい。
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	挨拶程度しか行っていない。		ホームの催しなどで、つきあいを深めていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の回覧板や、民生委員さんから情報を得て、行事、催し、奉仕作業等に参加している。		地域の催しや行事に参加する事で事業所の理解を得たい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の避難所としている事他、高齢化の進む地区の奉仕作業などに事業所として協力している。		今後も続けて行きたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価から出来ていない事については、全職員で話し合いを行い日々のケアに活かしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話しあった内容から問題解決が出来たり、アドバイスをもらえる事が活かしている。		運営推進会議に一般職員の参加する機会を設け意見を取り入れたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	若狭圏域運営委員会に所属しており、会議に出席している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、又、必要とする入居者がいないため、活用していない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会はあるが、参加できておらず。事業所としての研修や委員会があり、全職員で注意し合っている。		虐待についての外部研修にも参加したい。
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	グループホームの内容を理解してもらえるように、ゆっくりと時間をとって質疑応答が出来るようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時生活の場では、1対1で不満を聞くように努め、外部者への取次ぎも行っている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、各個人の家族へ便りにて伝えている他、急を要する時には、電話にて伝えている。		現在の報告方法に家族は満足している為、今後も続けていきたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内容については速やかに対応、反映されている。		家族からの意見は貴重な為、随時聞くようにし、反映させていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議で意見、提案を聞く事を行っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務を組む上で考慮し、調整を行っているが、職員の人員に余裕がない為、難しい時もある。		必要人員を確保し、柔軟な対応が出来る様にしたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者はどこの部署でも勤務できるようにと考え異動をすすめてくるが、馴染みの大切を話し合っている。		離職については、条件面などで話し合いを持つようになっている。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修やスキルアップの研修を受けるよう進めているが、職員不足になる事もある為、確実には受ける事ができていない。		なるべく多くの研修に参加できるようにしていきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相談を行い協力はしてもらっているが、職員不足により訪問や勉強会は行っていない。		安定した職員確保が行えれば、実行していきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム以外の場所に休憩室を設け、気分転換を進めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員それぞれの長所が、具体的にどのように良い影響を与えているかなどをさりげなく説明している。勤務が通常考えて過酷であったりするときは前もって声を掛け、終了後ねぎらうようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会や訪問から話を聴く時間を多くとり、利用までに不安解消に努めている。		訪問調査などで、ゆっくり話を聞く事で解消に努めたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ゆっくり話しを聞く時間を持ち、困っている状況や不安に思うことについては、しっかり対応していく。		家族の思いを理解して、いい関係を築いていきたい。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず何が必要かを、調査票を元に話し合い他のサービスも考慮しながら本人にあった対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前見学を勧める事や入居後でも、場に馴染めるように無理強いしない対応に努める。		
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	縫い物や簡単な家事を頼ったり、教えてもらう場面が多くある。		一部の入居者さんのみが行っているように思う為、個々の生活暦から生かせる役割を探していきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を常に呼びかけ、相談をしている。嬉しい事は面会時などに、伝えている。		今後も良い関係を継続させていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	良い関係が築けるような支援はしているが、深く立ち入れない場合もあり、不十分と思う。		家族・本人から話を聞き、お互いの思いを探り支援に活かしていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の機会を設け、以前の生活の場や、馴染みのある場所へ出向くようにしている。		友人の面会を呼びかけたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	近くにいる入居者さん同士が、相談や助け合う場面がある良い関係が続く様に支援している。		無理強いににならないように注意していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、訪問の許可をもらっているが、継続した付き合いはもてていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人の意向を聞き、希望の把握に努めている他、日常の様子や表情から本人に良いように検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報やサマリーから情報収集し把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録やバイタルチェックなどで、現状を把握している。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンス会議にて全職員で話し合い、本人・家族の希望を取り入れた介護計画を作成している。		本人が必要としている介護計画を立てて行きたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に見直しを行い、満足のいかないプランであれば、話し合いをもって作成をしている。		介護者本位のプランとならないように、注意していきたい。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの様子を記録に残し、変化やケアプランについての把握に努めている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居宅事業所の助言を得る事は日常的にある。		法人内にある部署とも連携をとっていきたい。
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて地域資源の協力がされている。民生委員やボランティアの訪問もある。地域の小学校との交流もある。		多くの機関との交流に、取り組んでいきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域リハビリサービスを年1回活用し理学療法士に訪問指導してもらっている。		リハビリ以外のサービスの活用もしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要のある場合のみ相談を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望の医療機関を確認し受けられるようにしている。		事業所の協力医との連携も図っている。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師より指示、助言を受け必要に応じ治療を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションとの連携を結び、助言や相談を受けている。		日常の健康管理から早期に治療出来るように、支援している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の様子の把握を行うために退院後のケアについて病院内の地域連携室と相談しあっている。		入院でも、顔見知りの職員や他入居者が見舞う事で、退院への意欲をもってもらえる様になっている。

項目番号	項目		印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医の協力の元、本人や家族、担当医、訪問看護師と相談し、方針を決定後、全職員で取り組んでいる。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>出来る事、出来ない事の話し合いを全職員で行い統一した方針の元、かかりつけ医とも相談し支援、準備している。</p>		<p>今後も重度化に備え、早めに対応できるように検討を続けていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>転居先へ介護情報の文書化を渡し、生活状況の説明も行う十分な理解を得られるようにしている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報に注意する為に、写真の掲載や記録の掲載には、本人や家族の同意を得て行っている。</p>		<p>プライバシー配慮した言葉掛けに注意していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>自らが決める事の出来るような解りやすい問いかけを行うように、職員間で話し合い、実践している。</p>		<p>新人職員に、問いかけの仕方を指導していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースは、大切であると考え優先しているが、職員が不足した場合などに、職員の都合を優先してしまう事もあるように思う。</p>		<p>職員本位の生活になっていないかを、常に配慮していきたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望者は市内の美容院に出向き行っているが、以外は訪問理容をホーム内で利用している。</p>		<p>訪問理容と入居者さんとが、なじみの関係になっている為、今後も利用していきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や準備は入居者の身体状況から出来なくなってきたり、献立を考えたり、買い物へ出掛けたりと食事を楽しめるように考えている。</p>		<p>職員と一緒に食事を食べることで、楽しい雰囲気になっている。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人から希望されたものは、買い物代行をし、個人で管理して好きな時に楽しめるようにしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排尿時間の間隔を記録、把握し、さりげなく声掛け誘導を行っている。職員本位のオムツ使用はしないように、話し合いをおこなっている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の時間帯は決まっているが、中でも個人で希望した順番やタイミングで入浴している。		職員本位の入浴パターンに、ならないように注意していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人の生活パターンを守り、昼夜逆転しないように注意しながら、昼寝をしたり、夜間の入床時間も本人の希望で休んでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦から本人が気晴らしとなるような役割や楽しみを提供し支援している。		本人の楽しみは増やしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で所持・管理されている方も有るが、ほとんどは金庫に預かり、買い物時に使えるようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望には応じるようにしている。その場合には他の入居者さんにも声を掛け、誘うようにしている。		同じ入居者に偏らない様にしたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の体調不良や職員不足などが重なり計画は出来ても実施できておらず。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は自室で子機にて行ったり、スタッフルームの電話を使用してもらっている。また、遠方の家族との手紙の代筆を行いやりとりをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	落ち着いた場所でゆっくり話しができるようにお茶を出すなど配慮している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設けてあり話し合いも行っている。		言葉による拘束がないか注意し話しあっていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は付いておらず。玄関の鍵も日中は施錠していない。裏口には施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は職員同士で声を掛け合い、さり気なく把握に努め監視されているような気持ちにならない様配慮している。夜間は三時間ごとの巡視を行っている。		プライバシーを考慮しながら、安全確認をしていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物も安易に取り上げず、本人や家族と相談しよい方法を考えている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防止策を職員で話し合い、一人ひとりに活かしている。必ず、万が一、という考えを持ち行動している。		一人ひとり状態が変わる為、その都度対応していきたい。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	対応マニュアルはあるが、全ての職員が訓練を行えてはならず。		定期的に、勉強会や訓練を行っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、消防署と避難訓練を行い、後、反省会も行っている。地域の方の協力は得られていない。		全職員が訓練に参加できる体制をつくり、防災意識を高めたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状態の変化があった場合には、家族へ報告を行い、リスクについても説明を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックを行い変化、発見に努めている。内容については、申し送り簿に記入し職員間で確認している。		全職員が体調の変化を読み取れるように、勉強していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院後に通院簿、カルテに記載することは勿論の事、薬の変更、用法、用量については、申し送りを行っている。		薬の重要性についての意識をしっかりとって理解していきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為に朝食時、ヤクルトを提供している。他にも、ご飯を軟飯にしている。水分補給も定期的に促している。		体を動かす事により便秘解消につなげていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	以前からの習慣で朝、昼に行わない方もいる為、無理強いはないが、声掛けの仕方を変えてみるなどして、支援している。歯ブラシなどの工夫もしている。		うがい薬を使用し口臭予防をしている方もいる。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表で、食事量、水分量がわかるようにしている。食事の形態や内容も、一人ひとり変えて提供している。		栄養バランスは大まかにしか考えておらず、偏りの無い食事に注意している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル化はされているが、全職員が把握できているかは、確認されていない。新人職員には、研修を行っている。		全職員が研修に参加しマニュアルを理解し予防、対応に努めたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の消毒は定期的に行っている。食材は必ず、消費期限を確かめ購入し使いきっている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設玄関には木製の表札を掛け、植物や花を置き親しみやすく、している。ホーム内玄関は開放されており、出入りしやすくなっている。		ホーム玄関が奥まっている為、わかりづらい。工夫を考えていきたい。
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節を表す飾りを置き、台所から調理の様子が見えたり匂いがしてくるため生活感がある。		トイレの臭いが気になる時ある為、掃除以外にも工夫したい。
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のソファや和室にコタツを置き、入居者さん同士で話しをする事もある。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた生活用品を持ってきてもらうようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気のあるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エアコンの温度調整をこまめに行い、天気の良い日には窓を開け外気の取り入れを行っている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっている。各所に手すりが設置してある他、個々の機能にあった工夫をしている。		自室に手すりがなく不安な時がある。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレなど解らない方にはドアに名前や目印になるものを付けてある。		
87	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏の畑で野菜を作ることで、収穫を楽しんでいる。		畑に出れない入居者さんの活動も増やしていきたい。
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)